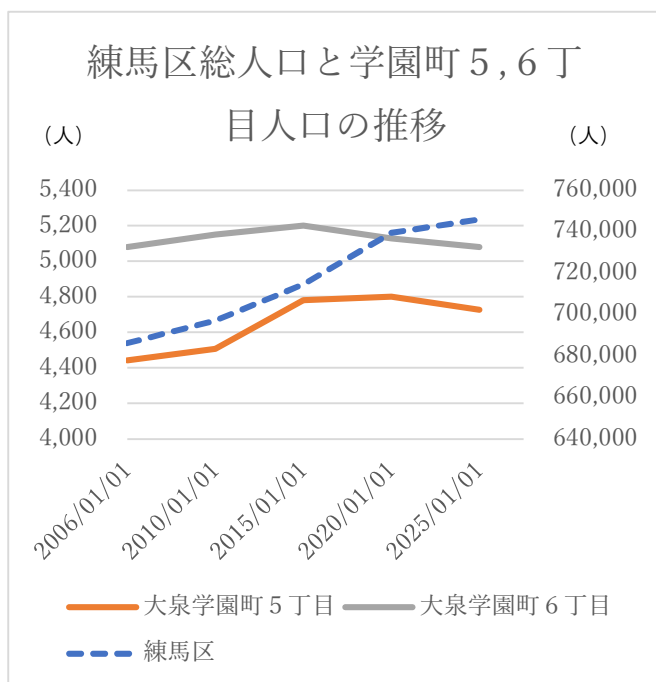


大泉学園町 6 丁目人口の推移

今年は五年に一度の全国一斉で国勢調査が行われる年である。国勢調査は、行政の基礎となる人口・世帯の実態を明らかにする、国の最も重要な統計調査です。練馬区では独自に毎年調査を行っており、これを機に練馬区統計に基づいて、大泉学園町 5 丁目、6 丁目の平成から今日まで凡そ 5 年毎の人口推移をまとめてみた。参考として、練馬区全体の人口推移と比べる。

調査年月日	練馬区	大泉学園町 5 丁目	大泉学園町 6 丁目
2006/01/01	686,237	4,442	5,080
2010/01/01	697,174	4,507	5,150
2015/01/01	714,656	4,781	5,202
2020/01/01	739,435	4,802	5,128
2025/01/01	745,927	4,726	5,080

これをグラフにしたものが以下の通りであるが、



練馬区全体の人口が、増加の一途であるのに対し、学園町 5, 6 丁目は共に 2015 年を境として伸びが止まっているのが分かる。

この原因として、考えられるのは以下の点にあると思われる。

①2000 年代以降は利便性を求めて都心回帰現象ともいうべき、主に若年層の都心・城南・城東エリアに集中する傾向がみられる。

②2010 年頃から外国人人口が全体を押し上げる傾向がみられるが、大泉学園町ではその動向は少ない。

③最寄り駅からの距離という点で、東京区部全体においても学園町は最も遠いエリアに属し、子育て世代や若年層に人気が無いと考えられる。

現在の学園町は、全体的に落ち着いた住環境の提供という理想的な住宅街を形成している。人口の劇的な増加は好ましくないが、それでも空き家が目立つようになった現状では、基本的なインフラの維持のために人口減少だけは避けたいところである。2040 年とされる大江戸線の学園町への延長が待たれる所以でもある。

2025 年 8 月 27 日 檜原悟